

平成 29 年 6 月 29 日  
消 防 庁

## 「平成 29 年度 救急業務のあり方に関する検討会」の発足

平成28年中の救急自動車による救急出動件数は約621万件（速報値）と過去最多となり、高齢化の進展等に伴う救急需要の増加への対応が求められています。

今年度は、救急車の適正利用を推進するため、「救急安心センター事業（＃7119）の全国展開」、「緊急度判定の実施」、「救急隊員の労務管理」について検討します。また、救急業務の円滑な実施と質の向上を図るため、「応急手当の普及促進」と「テロ災害等の対応力向上」について検討します。さらに、「救急統計の見直し」について検討します。

第1回の会合について、以下のとおり開催しますのでお知らせいたします。

## 平成 29 年度救急業務のあり方に関する検討会 第1回 開催概要

## 1 日 時

平成 29 年 7 月 6 日（木）15 時 00 分から 17 時 00 分まで

## 2 場 所

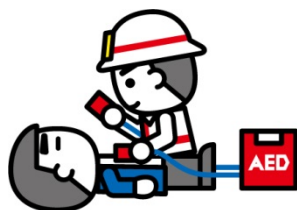
TKP市ヶ谷カンファレンスセンター ホール3A  
東京都新宿区市谷八幡町8番地

## 3 内 容

- （1）今年度の検討内容について
- （2）ワーキンググループ・小会合について
- （3）その他

## 4 傍聴に当たっての注意事項

- （1）会合は公開で行います。
- （2）傍聴を希望する方は、社名、氏名を下記連絡先に登録願います。（**7月5日（水）15時まで**）  
会場の都合上、登録数に限りがありますので、入室できない場合がございます。
- （3）入室の際は、受付に名刺をお渡しの上、14時45分からお願いします。
- （4）撮影に関しては、冒頭撮影（座長選出が終了するまで）のみとします。



## 【連絡先】

消防庁救急企画室

担当：大嶋理事官、小久江補佐、石井係長、大坪主査

TEL：03-5253-7529（直通） FAX：03-5253-7532

## 平成 29 年度救急業務のあり方に関する検討会委員名簿

※五十音順

- 浅 利 靖 (北里大学医学部救命救急医学教授)
- 阿 真 京 子 (一般社団法人 知ろう小児医療守ろう子ども達の会代表)
- 有 賀 徹 (独立行政法人 労働者健康安全機構理事長)
- 岩 田 太 (上智大学法学部教授)
- 小 野 清 (仙台市消防局警防部長)
- 唐 橋 竜 一 (埼玉県保健医療部医療整備課長)
- 坂 口 孝 司 (岐阜県危機管理部消防課長)
- 坂 本 哲 也 (帝京大学医学部救急医学講座主任教授)
- 島 崎 修 次 (国士舘大学防災・救急救助総合研究所長)
- 田 邊 晴 山 (救急救命東京研修所教授)
- 田 村 圭 子 (新潟大学危機管理本部危機管理室教授)
- 松 本 吉 郎 (日本医師会常任理事)
- 間 藤 卓 (自治医科大学救急医学教室教授)
- 森 住 敏 光 (東京消防庁救急部長)
- 山 口 芳 裕 (杏林大学医学部救急医学教授)
- 山 田 裕 之 (横浜市消防局警防部救急担当部長)
- 山 本 保 博 (一般財団法人 救急振興財団会長)
- 行 岡 哲 男 (東京医科大学常務理事)
- 横 田 順一朗 (地方独立行政法人 堺市立病院機構副理事長)
- 横 田 裕 行 (日本医科大学大学院医学研究科外科系救急医学分野教授)

(オブザーバー)

- 佐々木 健 (厚生労働省医政局地域医療計画課長)

# 平成29年度 救急業務のあり方に関する検討会 検討事項

高齢化の進展を背景とする救急需要の増大に対応し救命率を向上させるため、「救急車の適正利用の推進」や「救急業務の円滑な実施と質の向上」等について検討を行う。

## 救急車の適正利用の推進

### 1 救急安心センター事業（#7119）の全国展開（WG設置）

救急安心センター事業（#7119）の全国展開を推進するため、医療サイドの費用対効果の把握方法などを検討

### 2 緊急度判定の実施

緊急度を的確に判断し、救急車を緊急性の高い事案に優先して投入するために、119番通報時や救急現場における緊急度判定について、先行事例を踏まえ、普及方策を検討

### 3 救急隊員の労務管理

救急出動件数の増加に伴い、救急隊員の肉体的・精神的負担が増加しているため、救急隊員の労務管理について、効果的な取組を検討

## 救急業務の円滑な実施と質の向上

### 4 応急手当の普及促進

救命率を向上させるため、応急手当の普及促進策や通信指令員による口頭指導の促進等を検討

### 5 テロ災害等の対応力向上（小会合設置）

テロ災害などの重症な外傷に対応するための新たな資器材について、消防本部で導入するための救急隊員の教育カリキュラム等を検討

## その他

### 6 救急統計の見直し（WG設置）

- 救急搬送の必要性が低い件数の集計方法と不搬送理由の定義を検討（前年度継続課題）
- 国際基準を踏まえた救急蘇生統計の改定を検討

### 7 救急業務に関するフォローアップ

- 実施基準に関する状況
- 救急車の適正利用に関する啓発の状況
- 転院搬送ガイドラインの策定状況
- 訪日外国人への救急活動の円滑化
- 指導救命士の認定状況
- 困難事例への対応（頻回利用、精神科等）

等